



文量は短いですが。文章というのはね、だいたい書き出して凝るのよね。例えば小説を考えて下さい。小説家はですね、読者の関心を引こうとして、最初わざと「おや？」と思われるような書き方したりするわけです。それから、ちゃんとした論文なんかでもね、最初何が書いてあるわからないわけですから、私たちはね。5枚、10枚と読んでいくうちに「この文章は、これこれこういうものについて書いてあるのか」というのがわかってきてね、どんどんどんどんこうスピードが速く翻訳できるようになるわけですね。

ですから、小説なんかね…何だっけ？あの…「トンネルを越えたら雪国だった」っていうのでしたっけ？例えばそういう書き方しますね。そうすると、それだけ読んだらね、これ、誰が言ってるの？って話だよ。トンネルってどこのトンネル？って。それ気になっちゃうわけですよ。それから小説なんかで、いきなり主人公の名前が出てきたりするでしょ？「ウタコはその時、昔のことを思い出した」とかって、いきなり一番最初に書き出してあって、「ウタコって誰さ？」とか思っちゃいますね。

そういうことで、最初のうちはわかんないわけですよ。で、今回は、要するに短いものをみなさんに選んできたわけで…これは意識的に、私がわざと得意なものをやっていると思われてはいけないっていうんで。だから逆に言うと、私が読み違いをするかもしれないんで、申し訳ありませんけど、たまにはね。だから、そういう今回の主旨はですね、私が普段どういうプロセスを経て、訳文を作っているのかっていうのが知りたいということですね、そういう意味じゃちょっと、恥かく部分も一緒にみなさんにお見せするわけですね。

らだら言っている間にとっととやりましょう。

今日は最初なので、少し短めにしました。「しました」って言うか、してもらいました。ですからそれをじっくり読んでいきたいと思います。で、普通の演習ですとね、もちろん生徒さんに読んでいただくんですけどもね、読んでもらっても時間もつたいないから、もういきなり文字を見ていただくということにします。

第1パラグラフ 第1文

El insomnio es una de las enfermedades del sueño más comunes.

さて、最初の文章を見てみましょう。El insomnio…あのね、わざとゆっくり読みますからね。そうしてまず直訳しちゃいます、私が。El insomnio、これがesとありますから…insomnioって調べたよね？もちろん。何て書いてあった？

(生徒)「『不眠』か『不眠症』。」

「不眠」ですね。これ、なんか英語に同じ単語があつてですね^(編注2)、なんか映画かなんかありました？2、3年前に流行った…映画かなんか、私よく知らないんだけど、小説か知らないけど。なかった？「インソムニア」？あなた知らない？

(生徒)「なんかあったみたいですね。」

はい、だいぶ長くなりましたが、あとは能書きをだ (編注2) insomnia



映画かなんかありましたね。英語も同じ…英語ではもちろんこのラテン系の言葉というのは専門用語なんですね。難しい言葉なのです。(El) insomnio es una de las enfermedades del sueño más comunes. ここはね、非常に簡単ですね、キノシタさんにとっては。(文型は) This is a pen. 型です、なんの難しい問題もないですね。ですからあとは訳語の問題だけですね。で、何だっけ? 「不眠症は」ですね、後ろに行きますよ、del sueño más comunes、あとで聞きますけど、「もっとも」、comunes だから「ありふれた」、…この sueño はね、辞書を引いたらたぶん「睡眠」っていうのと「夢」っていう単語が出てくると思うんだよね。これは「夢の病気」って変だからね、だから「睡眠の病気」の方がいいと思いますね。「の、ひとつである」と。どうですか? そんなとこで。

さてそこで、この文自体は非常に簡単で、直訳でそのままいけますけれども、ちょっと文法的に確かめますね。まず、最初ですから分析します。el insomnio が「主語」と言います。es が「動詞」です。こういう be 動詞みたいなものを「コプラ動詞」と言いますが。それから最後の una 以下がですね、全体が大きな「属詞」になっています。英文法で言う「補語」になっています。ですから、これが英文法で言う「第2文型」にあたります。

さてですね、文法的にまず注目していただきたいのは、insomnio っていうのは「抽象名詞」ですね。形を持たない、こう抽象的なことを…病気の名前ですからね。こういう場合、英語ではですね、冠詞つけないですね、一般的な意味で言う時は。「そもそも不眠症なるものは…」と言うときには英語は冠詞つけない。で、スペイン語は必ずつけると。ここが、英語とスペイン語のまず冠詞の使い方の大きな違いです。

それからもう一点はですね、ちょっと待ってください…そうか、一番最後の más comunes のとこなんですね。私、今、読んでいてふと思ったんだけど、sueño が単数なのに、común という形容詞は複数になっているんだよね。ということは、これは sueño にかかっているんじゃなくて、enfermedad にかかっているわけですね。ですから、つまりですね、正確に言うとね、その睡眠に関する病気というのはいくつもあるわけですね。複数あって、「その中で一番有名な、よく知られている複数の病気のうちの一つ」と。正確に言うとそういうことだよ。日本語では、いちいちそんなの説明してられませんがね。四角四面に正確に言うとそういうことになります。それをちょっとふまえて下さい。

さてそれでね、más なんだけどね、これ、定冠詞つけなくていいですよ。大丈夫ね? ですから、この más comunes はどこにかかると言ったら、直接的には enfermedades にかかっているというわけです。で、スペイン語ではこのように、名詞にまず定冠詞がついてて、後ろに más + 形容詞が来ますと、自動的に「最上級」になります。で、フランス語はね、冠詞が非常に軽いものですから、もう一回つけるんです。で、イタリア語はどうか? イタリア語は常にいいかげんな言語なので、一応スペイン語と同じなんですけど、フランスかぶれのイタリア人はですね、más の前にもう一回定冠詞をつける「こともある」んですね。文法的には以上です。

何か質問があったら言ってください。すぐ先にいきます。

第1パラグラフ 第2文